第5回 市民健康文化都市条例検討委員会

日 時：平成 28 年 2 月 9（火） 18：30 ～

場 所：袋井市役所 4 階庁議室

<会議の概要>

会長	<p>■会長挨拶</p> <p>当初は、この条例を作るのにどうしようかと思ったが、この委員会を通して、この条例はやはり作った方が良く思うようになった。この条例は、他の自治体にはない特徴がある。日本一健康文化都市という意味では最初であると思う。それを条例化するという事については、後にも先にも出ないかもしれない。きちんと作るべきであるという思いがある。先日、議会で検討していただいたとのことだが、議会もそういう思いでいていただきたい。袋井市として、この条例を持つことは誇るべきことだという認識をきちんと持って、一般市民の方で疑問を持っている方に説得して行ってほしい。本日が最後ということで、よろしくお願いします。</p>
市長	<p>■市長挨拶</p> <p>先日、議会で、最終的な案に向けていろいろな意見を交わした。私は市長に就任し15年となる。それ以前は県の職員であり、最終的なポストは健康福祉部長であったので、いかにも健康福祉に詳しいようだが、そんなに詳しいわけではなかった。袋井市の市長になった時に最初にぶつかった言葉が、「健康文化」という言葉である。前任の豊田市長の時に、すでに「日本一健康文化都市」というものを掲げていた。「健康文化」という言葉は馴染みにくい言葉であった。国民文化祭の時に、袋井市では「スポーツ文化」という言葉を出した。それはこの「健康文化」という言葉が元となった。その頃には「スポーツ文化」という言葉を通して、「健康文化都市」つまり、健康という土壌がこのまちにはあるということが定着してきたと自分は思っていた。しかし、議員の皆様の中には理解がしておらない方がいて、「健康文化」とは何かと、また改めて聞かれる。ということは、市民に対して「健康文化都市は何なのか」説明する必要</p>

	<p>がある。そういう意味では、今回この条例を作ってもらったのはありがたい話である。この条例を通して、一見聞き慣れないこの言葉がすごくいい言葉であると、市民に皆さんに示していくことができる、あるいは示すことができたと思っている。5回の委員会の中で内容を詰めてもらったおかげで、洗練された条例になっていると思う。「日本一健康文化都市宣言」をしているが、それを条例化して、それぞれの立場の方に役割を持ってもらうということは初めてでとても嬉しく思う。今度は、できあがった条例を市民にどういう形で広めていくか。「健康文化」という言葉を含めて広げていくにはどうしたら良いか。様々な行事を通じて、この条例の一部を切り出す形でもいいので、条例の中にきちんと書いてあると、市民が気づけるようにしないといけないと思う。委員の皆さんに検討していただき出来上がった条例ですので、後は、市民に身につけてもらうべく最大の努力してまいりたい。大切な時間をいただき検討して下さったことに、心よりお礼を申し上げます。ありがとうございました。</p> <p>(原田市長、退席)</p> <p>事務局から説明（前文・第1章について）</p> <p>前文がわかりやすくなったような気がする。前文の赤字に直したところで「健康文化都市とは健康がまちの文化として共有され、肉体的にも精神的にも～」とあるが、これは「健康」という言葉を定義をしたことになるのか。「健康」が「まちの文化」というのはちょっと違和感がある。</p> <p>「健康文化」が意味することは何か、という議会からのご指摘があり、本市としては「健康」と「文化」を切り離すことなく一体として捉えたいと考えている。健康そのものが、まちを作り上げていく文化になっていく、そういう位置づけで捉えてている。</p> <p>「健康であることが」などの言葉がないとつながらない気がした。市民もまち自身も健康であることが、文化都市で共有されているという意味合いにとったので、「健康」という言葉が「まちの文化」ととれるがそれでよろしいのか。</p>
<p>会長</p>	<p>前文がわかりやすくなったような気がする。前文の赤字に直したところで「健康文化都市とは健康がまちの文化として共有され、肉体的にも精神的にも～」とあるが、これは「健康」という言葉を定義をしたことになるのか。「健康」が「まちの文化」というのはちょっと違和感がある。</p>
<p>企画政策課長</p>	<p>「健康文化」が意味することは何か、という議会からのご指摘があり、本市としては「健康」と「文化」を切り離すことなく一体として捉えたいと考えている。健康そのものが、まちを作り上げていく文化になっていく、そういう位置づけで捉えてている。</p>
<p>会長</p>	<p>「健康であることが」などの言葉がないとつながらない気がした。市民もまち自身も健康であることが、文化都市で共有されているという意味合いにとったので、「健康」という言葉が「まちの文化」ととれるがそれでよろしいのか。</p>

委員	<p>健康は見えるものではないので認識が難しい。ここをいろんな言葉に置き換えるとわかりやすくなる。例えば、伝統文化に置き換えるとわかりやすい。</p> <p>今後の袋井市ばかりでなく日本が抱える背景があって、そういう中でこういうものを掲げてみんなで進みましょうという意思の喚起をわかりやすくシンプルに表現されていると思う。これがあるから前文と後ろの条例のところもつながってくる。非常にきれいにまとまったと思う。</p> <p>健康は、完成品ではなくて、これからもつくる、進行形という形のもので良いと思う。ここは、いろいろな人の見識が出てくると思うが、それを皆で喧喧諤諤やる中で、袋井の「健康文化」が育っていくのではないかと思う。今ここで定義して決めてしまうというのではなく、今後これが将来的に発展していくという意味でこういう言葉でいいと思う。</p>
会長	<p>前文の定義も非常にわかりやすくなった気がする。</p> <p>「伝統がまちの文化」はすんなり入ってくる。なぜ「健康がまちの文化」がすんなり入っていないのか。それは健康はいろいろな意味を含んでいるからだと思う。ここで「健康」＝「まちの文化」という定義をしているのだと思う。</p>
会長	<p>事務局から説明（第2章・第3章・第4章について）</p>
会長	<p>「参加」と「協働」は別の言葉であるということか。参加すること、協働することの違いは何か。</p>
企画政策課長	<p>「参加」と「協働」を厳密に言えば捉え方は異なるかと思う。「参加」には市民が気軽に参加する、行政がやる行事に対して参加するという意味合いがあると思うが、「協働」となると市民と行政がパートナーとなって取り組んでいくという意味がある。</p> <p>事務局としては「参加」があつての「協働」という意味を込めて「参加と協働」という表現にしているが、「協働」だけでもいいのではという意見もあれば議論いただきたい。</p>

会長	<p>浜松市は「協働センター」になっている。協働センターは市に手続きをしにいくところの場所であり、単なる参加だけでも協働センターに行く。「協働」という言葉は便利だと思った。しかし「参加」と「協働」は違うものであり、「協働」という言葉を強調する意味でもこの言葉でいいのかな。</p>
委員	<p>「協働」は主観的に行動するという意味も含んでいるような気がする。まずは行って参加して、自分から動いていくという意味では「参加と協働」は良いと思う。違和感は自分の中ではない。自分から動かないといけないという思いが「協働」の中にはあると思う。</p>
委員	<p>「参加」は言葉どおり。「協働」というといろいろな主体性ある者が、対等の立場で歩み寄ったり協力するという、一步踏み込んだ関わりをすることだと私は捉えている。市民の中には、「協働」とまではいかないけれど、まだ何をしたいかわからないということであれば、まずは「参加」をするという意味になると思う。</p>
委員	<p>「参加と協働」はすんなり入るのでいいと思う。 第3条のところ、変更した後の方が分かりやすい感じがした。条例といっても、がちがちのものとは違うものですから、市民が部分的に読んでもわかりやすいという点からすると、このような文言が入ったほうがわかりやすい表現だと思った。</p>
	<p>事務局から説明（第5章～）</p>
会長	<p>第4条の第3項を加えたことについて、実際には市民だけではなく、地域団体や事業者すべてが同じように「市政の持続的な発展に寄与する」ということですよ。市民の所にだけこれを入れるのは疑問があるということか。</p>
企画政策課長	<p>それも1つある。ただ市民の中だけ入れたのは地域団体、事業者それぞれの構成員として捉えると、市民という形で包含できるかなと考へ、あえて地域団体、事業者の所では同じことを表現せずに、代表して市民の所で一項入れさせてもらっている。「市政の持続的な発展」という言葉だと、行政側が総合計画に沿ったさまざまな取り</p>

委員	<p>組みをする上で、市民の皆さんの協働に対する責務を規定するという表現になるため、押しつけ感が出ていないか、といったところでご意見をいただきたい。</p> <p>第4条の第3項は、面白いな、と思った。なぜかという、「市民が」という主語がスッと入ってくる。この条例のベースの1つに「地域包括ケアシステム」があると思う。その中の市民との協働という所で、市民は「ソーシャルキャピタル」である、つまり社会資源の1つというとらえ方もはっきり出ている。「ソーシャルキャピタル」の市民ということであれば、市民としては悪い気持ちはしないと思う。少し洗練された受け止め方をするのではないか。第3項を入れるかは、地域性もあるし、早いか遅いかということもある。しかし、いつかどこかでこれは出てくるものだと思う。</p>
会長	<p>私は、第4条の中で第1項と第2項の内容から、第3項を入れると、同じことの繰り返しになっていないかというのが疑問に思った。短い言葉で印象的ではある。</p>
委員	<p>私は、市と協働する、つまりパートナーシップの最大目的がここにあるということを謳っていると捉えた。</p>
会長	<p>先ほどの「参加と協働」に繋がってくるということか。</p>
委員	<p>決して押しつけられるものではなくて、市民が参加・協働していくものと捉えた。</p>
委員	<p>私も、第4条第3項は第1項と第2項の同じことのくり返しになっているのではないかと思った。しかし、第3項で「協働」ということに重きをおいているのではないかとも思った。「参加」というと参加して終わりだが、「協働」ということになれば進んでいながら、市政を発展させていくことができると考える。</p>
会長	<p>「参加と協働」については第4章で触れられるが、第3章の早い時点で、ということになりますよね。</p>

委員	第3項は突然出てきたような感じがする。協働というのは必ずしも市政の発展だけではなくて、自分のためとか地域のためでもあり、結果として市政の発展に結びつくかもしれないが、幅広い活動のなかには必ずしも市政の発展に寄与しない行動もあるのではないかと思う。市民の自由な行動を、ある意味ではこの言葉で縛ってしまっているような、少しきついような印象を持った。
委員	暮らしている実感からすると第1項、第2項だけでいいのではないかという気がする。
委員	第3項の部分だけを見るとその通り、と思う。しかし、市民が積極的に努めていかなければいけないというはわかるが、第4章で参加と協働のことが出てくるので、いきなりという感じは受けた。個人的には第2項まででいいのではないかと思う。第3項は第4章のところでも謳っている内容になるのかなと感じた。
委員	この言葉が入ると、罰則はいらないのかとなりそうな気がする。
委員	参加をしなければ協働ができないような気がする。基本的には「参加」と「協働」は結びつけていかないといけないと思う。基本的には赤い字の部分（修正）は非常にまとまっている感じた。我々としての意見は前回ですべて出ていると思う。文章的には変な文章でないと思う。
企画政策課長	第4条の第3項に入れるのがいいのか事務局も悩んだ。見野委員が言われたように、ソーシャルキャピタル、つまり市民と行政との信頼関係の中での社会資本的な意味合い、がないと本来は実現されないところかと受け止めている。ただ、この時期に先行した形で規定できるのかというと他の委員の皆さんからご指摘もその通りだと思う。事務局で預らせてもらえたらと思う。
会長	全体を見て第3項のご意見を事務局へ寄せてもらうことでよいか。 (委員賛成)
委員	議会で出た意見の中で、「今回の条例は、市民や各種団体に強制的

	<p>に進めようとする感じがする。もう少し柔らかい表現にした方が良いのではないかと質問されているが、強制をするためにこの条例を作るのではないというのは大前提だと思う。もっと柔らかい文章というと条例の作りようがないと思う。議会の意見は条例を作ること自体に問題があるというようにも捉えられる。この文章がきついとは思わない。条例を作るのならこれぐらいの文章にまとめていかないといけないと私は思う。</p>
<p>企画政策課長</p>	<p>条例全体が強い感じがするという指摘であった。「～努めるものとする」などの語尾などが強めに感じるということだった。私からは、そう受け止める人もいるし受け止めない人もいる。検討委員会の中でもそうではないと説明をした。ただ、もう1つ言えるのは健康文化都市宣言をして5年10年経っていく中で、一定のレベルまできている。さらにそれを盛り上げていくには、やってくれればありがたいぐらいのレベルでは先に進めないという思いもある。検討委員会の中でもそういったご意見があったことを認識しているので、原案は修正する必要はないのではないかと考えている。</p>
<p>企画財政部長</p>	<p>パブリックコメントのなかでも強制、押しつけの条例ではないかという質問があった。施策として市民に対してなすべきものが行政であって、協働という概念についてまだ抵抗がある。市民が自ら事を起こすことについての概念に抵抗があるという意味で強制的なものに聞こえてしまっているのかもしれない。</p>
<p>委員</p>	<p>条例を作ること自体、文面を作り、それをみんなで1つ掲げてそれに向かってやろうというのがあるので、ものすごくきつい表現の文章ではないと思う。議会では、条例を作ること自体に問題があると捉えているのかな？と思った。全体的に文章そのものはまとまっている。内容的には良いと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>別の会合の雑談で、静岡県は北海道に次いで2番目に人口流出率が高いということが話題となった。袋井市は総合計画を作り、それを踏まえてこの条例があるので、第1章の総則の目的、「市民の誰もが住んでよかったこれからも住み続けたいと実感できるまちの実現を図ることを目的とする」と、このことを文言で落としした所に価</p>

	<p>値があると思う。条例という言葉自体、圧迫感を感じるかもしれない。ただ、こういう形で袋井は進むという戦略の1つと考えれば、「もう少し柔らかい表現に」というのは全く問題にはならないという気がする。</p>
副市長	<p>きついのではないかというのは多くの議員が言っているわけではなく、発言があったということか。</p>
企画政策課長	<p>発言があったということです。</p>
副市長	<p>元々どうしてこういう条例を作るのかというと、今、少子化や高齢化など様々な課題があり、財政的にも厳しい中で、安定した社会をつくっていくには、多様な主体が役割を担い、協働しなくてはいけない。そういう背景がある。それぞれの主体に認識を持っていただき、そして行動変容を促すためである。</p>
委員	<p>きつい、押しつけという意見だと思うが、これから先の10年を考えたときに他に良い材料が浮かび上がってこない。第4条の第3項について、自分たちの置かれている現状や背景に気づくための一文があってもいいのではないか。この先、時代がかなり厳しくなっていくことが予想されている中で、住み続けられるという持続可能性の部分では、一文あったほうが良いのかなと思う。今の時点では袋井市にとっては時期が早く、ちょっと刺激的なのかもしれないが。そこはニュアンスなどを変えながら、こういう一文はあってもいいのではないか。一年経って古くなるのではなくて、この条例が生き生きと機能することがあってもいいかなと思う。</p>
会長	<p>最後に皆さんの思いをお聞きしたいと思う。</p>
委員	<p>多少語句の修正はあるかもしれないが、全体的にはある程度まとめであると思う。議会のほうも決まったからと必ずしもこの通りすべての地区でやりなさいという指令は出しませんが、ひとつこれに基づいてやっていきたいと思う。</p>
委員	<p>言葉については、解説の中で、わかりやすい言葉、やわらかい言葉</p>

	<p>に変えて理解してもらおうことはできると思う。条例を作って終わりではなく、その条例を市民がいかに自分のものにしていくのか大事であると思う。昨日、袋井市と県の市民協働の担当者とネットワーク会議をしたが、その中で次世代の育成がとても大きなポイントになってくると言っていた。大人向けの条例ではなくて、出前講座などの形でPRすることで、高校生も自分たちの市にこういう条例があるのだと知ること、自分たちのまちについて考えられることができるのではないかと。そうすると、地域の問題を解決しようという人が増えていって、それが自分たちのまちに住みたいという気持ちになっていくのではないかと。</p>
<p>委員</p>	<p>うらやましいと思った。袋井市はすでに市民がこうありたいというビジョンを持っていて、それを実践できるような形で力をもっていると思う。健康文化都市条例ができた時に、もう少しボトムアップできるようなパワーを持つためには、これは決して施策としてやるのではなく市民が地域の福祉、教育、産業、農業、経済などのボトムアップするための「地域力」になる1つのチャンスではないかと市民に捉えてもらったほうがいいのか。条例をきっかけとして気づく人が出て、こうありたいという思いも出てくるのではないかと。「健康文化」に置き換えるものとして教育、福祉、経済、産業などいろんなものがある。それを健康というもので考えれば、市民の理解も得られると思う。</p>
<p>委員</p>	<p>地域社会の繋がりに関して、若い時は全然考えなかったが、最近はそういったことを考えるようになった。高齢者社会となったときに健康に関する条例があれば、こういったものを真剣にみるのではないかなと思う。若い人は曖昧な言葉はなかなか理解してもらえないという感覚がある。条例の文言がきついのではないかと話があったが、条例を見た時に、きつめのほうがはっきりわかるのかなと感じた。これから先、この条例があることは市民にとって良いものになっていくのではないかと感じる。事業者として、地域の方たちとの交わりも非常に大事である。事業者として肝に銘じ、市民の方と協働で作り上げて袋井市が良い方向にいけばよいと感じた。</p>
<p>委員</p>	<p>条例というのは、どうしても言葉をいろんな方面から検討して齟齬</p>

	<p>のないような言葉づかいをしなければならない。よって法律、条例は固く、無味乾燥な言葉が多くなるのはしょうがないのかなと思う。その中でも、この条例については、やわらかい言葉がたくさんあり、それなりに良いものができたのかなと思っている。今後は、どう広めていくかが課題だと思う。私は、協働は「究極の民主主義」であるかと思うが、私も行政に関わった経験上、協働は必ずしも行政がコントロールできるものではないと思う。協働を推進していく中で、行政はこう持っていきたいという思惑が当然あるが、思わぬ方向に流れていく場合もある。そういったことも行政として受け止める覚悟が、袋井市にはこれから求められてくると思う。</p>
<p>委員</p>	<p>袋井市のサイズにちょうど良いものができたと思う。3000人の村ではきついし、大規模な都市では全然だめだと思う。袋井市はまだまだ地域が見えるところが色濃く残っているからこそ、ちょうど良いものができたのだと思う。今後はその特性を生かして活用していく方向にいくと良いのではないかなと思う。そういう意味で良いものができたと思う。他のところはどうかであれ自分のところはこうだと考えていくと、この条例が生きる部分があるのではないかなと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>条例というと市が立派なものを作る、市が守ってくれるものであり、自分たちの生活が条例と直結しているというイメージはなかった。日常生活の中で市政参加、支援教育とか言われるけれど、自分には関係ないと思っていた。しかし、今まで検討委員会で話し合いをしてきた中で、条例はこういう形で作っていくんだな、1つ1つがこういうところと結びついているのだとすごく勉強になった。今後、パンフレットで落とし込んでいくと思うが、条例が具体的になり、自分が行っていることがこの条例に結びついていくんだな、それがまちを良くする1つになっていくんだなということがわかるような条例に仕上がったと思う。今後、私も市民の一人として自分がやっていることが市に貢献していると思えるように、条例を大事にしていきたいと思った。</p>
<p>会長</p>	<p>「協働」について私の見解ですが、私は浜松市で700ヘクタールの土地の保全をボランティアで行っている。それは市の土地で、最初、開発されるとなった時に、市が買い上げて開発を止めた。その時</p>

にどうやって市民のために使うかと検討する役割を私は与えられた。都市公園にしたり、遊園地にしなくて良いのかと聞いたら、緑を保全するための活動に考えてもらえれば良いということであった。ブルドーザーが入ってはいけないので、市民のボランティア団体がやるべきだと答申したらその通りになってしまい、私がボランティア活動に協力して13年ぐらいになる。

今、浜松市が新しく採用する新任者に丸1日来てもらい、その土地を使って作業してもらおうということをやっている。120~130人の場合もある。午前は市民協働とは何か、ボランティアとは何かについて私が講義し、午後は実際に竹を切ってもらったり、田んぼを耕してもらったりしている。市が市民の私に対して、そういう考えの場所を作ったらどうかと提案したことはない。自由にやらしてもらえば良いと言われた後は、ボランティア活動となり、市の指示はなくなっていった。今は全く指示がない。市民協働として、住民が提案して活動するという形になっている。だんだん行政側が関与しない方向にきている。市民協働といった場合は、最初からこうしたらどうでしょうかという提案も含めて、市民がやるべきだということも含んでいると思う。それが条例の「参加と協働」の中に表現されているかどうか。市民側の要請を市側がのってきてくれるという形が協働かな、と思える。その割合は非常にフレキシブルだと思う。フレキシブルな考え方に基づいて「参加と協働」が実現していくと、市と市民との区別が無くなっていく。それが民主主義になる気がする。言葉をかみしめながら今回の条例の文章を拝見した。そのように解釈しても問題ないなと感じるようになった。

「努めるものとする」というのは努めなければいけないんだと思ってもらったほうがいいのかもわからない。努めるのだから関心を持っただけでも協働になると解釈を広げれば、きつい条例にはならないのではないかと解釈できる。市民に条例ができたからこれに従えと頭ごなしに言うのではなく、むしろ、条例をどうやって市民に説明して一緒にやっていく気持ちにさせるかがこれからの行政の手腕かなと思っている。

最初、なぜこの条例が必要なのか疑問に思ったこともあったが、今、この条例はあって良かったと思う。何をもって日本一とするのか、最初は考えたが、これはこだわる必要がないと思った。それは1人ひとりが考えれば良いと思う。

<p>副市長</p>	<p>お礼を込めてご挨拶したい。昨年6月から5回の検討委員会ということで長期に渡ったが、条例の仕上がりを見て非常に感謝申し上げる。平成17年に合併した時に、人口が8万3500人だった。10年経って、平成27年に8万7000人になった。そして、今後の10年後を推計すると、平成37年に8万5500人になる。この先10年を見ただけでも相当の人口の変化がある。これから人口が減少局面に入る時に、こういう条例ができるのは嬉しい。20年、30年後は、もっと少子化や高齢化が進むので、タイミング的には非常に良いと思う。</p> <p>袋井市は、小学校12あって公民館が13ある。1小学校に1公民館といった範囲で、そこで生まれて育ち、コミュニティがとても充実している。それは外へ視察に行くと、肌で実感する時がある。先代たちが残してくれた良いコミュニティの組織があるので、これに今回の条例が揃うとさらに良いなと思う。</p> <p>さて、これをどのように市民の皆さんに浸透させていくかがなかなか難しい。市の職員は、市民と日常的に接しているので、職員が担当している仕事の中でこういったことを示すことが必要である。また、市民の皆さんに小さな成功を体験して味わってもらうのが一番「参加と協働」の成果となると思う。ベネフィットは市民に返ってくるというのが一番だと思う。第8条の4項と5項で、市職員の責務がある。これを実のあるものにしていくには、市の職員からこの条例の認識を新たにしていく必要がある。</p> <p>市では行政改革を行っているが、平成30年度を目標に、13公民館をコミュニティセンターへ衣替えをしていこうということで、平成28年度と平成29年度の二年間かけて人の体制、拠点としての機能をどうするか、制度設計を皆さんとキャッチボールしながらやっていこうと思っている。そうしたことが実現して、参加と協働がいろんなところで活発に行われると、生き生きしているじゃないか、と。検討していただいたお返しとして形として見せないといけないと思っている。そこは頑張ってやりたいと思う。長期の検討大変ありがとうございました。</p> <p>事務局から説明（今後の推進）</p> <p>最終の検討委員会ということでいろいろな意見をいただきありが</p>
<p>事務局</p>	<p>最終の検討委員会ということでいろいろな意見をいただきありが</p>

	<p>とうございました。事務局として、案としてまとめ、今月23日に2月の市議会定例会が開会されるので条例の制定ということで上程させてもらう。そこでもう一度議論し3月22日に閉会するので、その時点で可決になれば制定となる。条例は本年4月1日施行になるのでその後、生きていくことになる。周知が必要かと思うので、まずは簡単なリーフレットを作りたいと思っている。そこに条文を盛り込むが誰が見てもわかりやすいような、例えば子どもに「日本一健康文化都市条例ってなに？」ときかれてお父さんお母さんがわかりやすく答える、市民、企業、市議会の方が手をつないでまちづくりを進めるというイメージにもっていけるようなリーフレットにできたらいいと思っている。行事やイベントで周知をしていきたいと思っている。機会を通じて周知をしていけたらと思っている。また地域に出向くことも様々な場面である。第2次袋井総合計画が平成28年度から10年間スタートする。併せて13公民館それぞれ13地区の地域の将来像ということで地域編というのを作りました。平成28年度～10年間スタートするというのがあるので地域へ出て説明する機会があればと思っている。企画だけではなく都市計画、建設課いろんな場面で地元説明会に入っていくときにリーフレットを持っていってもらい周知できたらと思っている。市役所内部平成28年度新規採用職員にも刷り込まないといけないと思っている。時間をかけて浸透させていく必要があるかと思うので粛々と啓発をしていきたいと思っている。</p>
委員	<p>地元の市職員の担当が入り、行政と地区と意見交換を毎月行っている。そういうところを利用したほうが良いのでは。公民館のコミュニティセンター化が一番機能を発すると思う。そういうところを利用してやっていったほうがいい。地元の市職員が入って説明は必要かもしれない。</p>
事務局	<p>地域と行政の橋渡し役で地域担当職員が13地区それぞれ貼り付けている。その職員が地区の自治会長会議に出ていき、市の情報を提供したり地元の意見を市に持ってくる役割をしているので、そういう機会を通じて啓発していきたいと思う。</p>
事務局	<p>貴重な意見をいただきありがとうございます。事務局もこの条例が</p>

	<p>どういった形になっていくか不安がありましたが、皆さまのお陰をもちまして条例という形にできましたので成案としてしっかり私たちが推進していきたいと思っています。ありがとうございました。以上をもちまして第5回市民健康文化都市条例検討委員会を閉会します。全5回にわたり貴重な議論をいただきありがとうございました。</p>
--	---